

コロナ禍からコロナ果へ

現在、地方は、人口減少や少子高齢化、産業空洞化など様々な社会課題に直面しています。

デジタルは、こうした社会課題を解決するための鍵であり、新しい付加価値を生み出す源泉だそうです

デジタル田園都市国家構想では、デジタルの力で、地方の個性を活かしながら社会課題の解決と魅力の向上を図り、そして、「地方に都市の利便性を、都市に地方の豊かさを」を実現して、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指しているとのことです。

地方に居住していても、都市部まで出かけずインターネットで買い物ができたり、都市部に居住していても在宅勤務等により通勤疲労が緩和されたりするなど、日常生活でも様々な場面でデジタル化の恩恵を感じ取ることができます。

私たち行政相談委員の活動においても、新型コロナウイルス感染症の影響により、相談所の休止はもとより、感染拡大当初は、会議等も中止となっていましたが、最近では、会議や研修等はデジタルの力を借りて開催されました。

それまでは、午前中に別の用務があれば、会議等の参加は困難でしたが、オンラインでの会議であれば、移動時間の短縮により参加が可能となりました。海もあり山もあり都市部もあり、そして太平洋にも日本海にも面している広い兵庫県。会議が開催される神戸市に行くのに数時間かかる委員がいる中で、オンラインで会議に参加できることは、委員にとって心身の負担軽減になったことと思います。

これらオンラインでの会議参加等による経験と知識は、コロナ禍だからこそできた果実ではないかと考えています。

これから行政相談の受付においても、従来の対面、電話やメールによる相談に加え、オンラインでも相談を受け付けることが始まりました。

デジタルの力で物理的な距離や時間的な制約が緩和されることから、移動が困難な人などには、とても便利なツールとなるのではないのでしょうか。総務省の職員や行政相談委員が対面と同様、「きくみみ」を持って、しっかりと対応しますので、お気軽にご利用いただければと思います。



兵庫県の方々へ
行政相談については、
「きくみみ兵庫」まで連絡を